

研究地
予定
タヲ
ト施設

希少生物生息確認でも **山** 県、開発継続の方針

トヨタ自動車が豊田市と岡崎市にまたがる約700畝の土地にテストコースを含む研究開発施設を設置する計画で、同社の依頼を受けて土地の取得・造成を行う県企業庁は26日、造成予

定地でオオタカの営巣など希少生物の生息が確認された場合でも、開発は中断しない考えを明らかにした。この日開かれた県議会産業労働委員会で、民主党の山田幸洋議員の補足質問に

対して答弁した。県は今年度、予定地の環境影響評価などの費用として約14億円を計上、来月、大気や水質、動植物など16項目の調査対象と調査方法を示す。山田議員は、当初愛・

地球博(愛知万博)の主要会場が予定されていた海上の森(瀬戸市)でオオタカの営巣が確認され、会場が変更になった例を挙げ、「予定地にオオタカがいたらどうするのか」と質問。

これに対し、企業庁側は「極力共存できる施設を考えたい。周辺には広い自然があり、(オオタカは)ほかに住める」と述べ、開発予定地の変更はしないとの立場を示した。